

# ブッシュ米政権のイラク新決議案

イラク占領政策が行き詰まり米英占領軍の撤退を求める国際世論が強まる中、ブッシュ米政権は三日、米国の指揮下で多国籍軍を編成するとした新しい安保理決議案を提示しました。一方、欧州ではイラク戦争を機に、欧州連合(EU)憲法に戦争放棄条項を盛り込ませるための署名運動が広がっています。この運動の中核となってきたイタリア平和委員会のダビデ・ベッルーティ全国調整委員に、新決議案をどうみるか、署名運動の広がりや背景について電話でインタビューしました。

(島田峰隆記者)

イタリア平和委員会

ダビデ・ベッルーティさんに聞く



イラクでは毎日のように米兵が殺されてお

り、占領を続ける米英軍にとってはますます統制がたい状況になってきていることは明らかです。米本国でもイラク占領への支持を失いつつあり、ブッシュ米政

うとする新たな試みといえます。米英軍の占領体制を維持しながら、他国に資金や人の負担を強いるものです。

しかし、なぜイラクが混乱するかといえ

上からこの運動に取り組んできました。今では欧州各国の平和組織の共通した取り組みになり、署名も各国語で用意されています。署名は、欧州が①国際紛争の解決手段としての戦争を放棄する②平和を基本的人権と認める③平和的、民主的な国際秩序構築に貢献する④以上の目的のために国連を強化、民主化し、国際協力を強め

ます。同月十二日には恒例のペルーシャーアッシュシ平和行進が行われます。今回は「平和な欧州のために」をスローガンにして特別な位置付けで計画しています。

## 占領は民主主義生まない

## EU憲法に戦争放棄条項を

押し付けるという前提が間違っているから困難が生まれるのです。

る、ことを憲法の第一条に掲げること

も、欧州が平和に貢献する

もともと侵略戦争と占領という誤った種をま

目撃し、反戦運動に触れたことで、イタリア国民の平和への思いは

か期待しています。

民主主義という正しい

イラク戦争の被害を

平和な欧州に

果実を期待できるはず

各国語で署名

わたりは一年以

十月から始まる、EU拡大にあわせた憲法採択についての政府間会合(IGC)にあわせてイタリアでは大規模な運動を準備しています。